

# Echo

NO.124 平成 16 年 3 月 5 日

発行：(社)福島県臨床衛生検査技師会

〒960-1247 福島市光が丘 1 番地

発行責任者：比佐 哲夫

編集委員長 金子 隆子

福島県立医科大学附属病院検査部

TEL.024-548-4290

## 会長新年のご挨拶

社団法人福島県臨床衛生検査技師会

会 長 比 佐 哲 夫

平成 16 年の新春にあたり会員の皆様には、輝かしい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年の県技師会事業では、当技師会の精度管理調査事業に福島県の委託事業として、登録検査所 14 施設を含む 74 施設が参加して実施しました。臨床化学の検査項目では、基準値の共有化へ向けて十分対応が可能な状況になってきているものと思われます。しかし、一部の検査では、最新のガイドライン等の検査手技を常に収集し対応が必要があること、細菌検査の同定では、幅広い菌種の対応を要すること等がありました。また、これからの対応として、ケミカルドライを使用している施設の精度管理を検討していきたいと思っております。



公益法人として、県民に臨床検査技師の業務を理解してもらうため、福島市、郡山市、喜多方市、いわき市の健康まつり等に参加し多くの市民にアピールしました。

我々臨床検査技師を含む医療関係では、昨年、被保険者の保険料の 3 割負担、高齢者医療の増額、医療関係職の人材派遣の規制緩和、急性期医療における DPC の導入、特別区域での株式会社による自由診療での病院開設がありました。また、今年の診療報酬点数改定年では、薬価・材料が 1%引き下げとなり、平成 18 年度には、県立病院の独立行政法人化への移行が実施される等大変

厳しい状況になっております。会員の皆様においては、検査室内に留まることなく、認定技師制度での認定取得のために技術の向上を図り、ISO15189 の取得による検査室の効率化を図る等に努めていただくと共に、皆様の病院・診療所が今、何をしなければならないのか関係者スタッフと考え、臨床検査技師は、何をすべきかを考え病院・診療所の差別化を図る必要があります。そして検査室(技師長)としては、正確で早くサービス良く、経済的な検査室、次世代を担う後輩の育成、新しい情報の発信、病院から信頼、信用されるよう努力してください。

日本臨床衛生検査技師会では、引き続き検査技師法の一部改正の早期成立をめざしています。については会員皆様の技師連盟加入をお願いします。また、検査研究では、平成 16 年度より 6 部門にして分野を廃止する方向です。外部精度管理の統一化(NEQAS)の実施がきまり日臨技コントロールサーベとの整合性を図り推進することになっております。

## 生涯教育研修に関する報告

平成 15 年度生涯教育登録状況(2004.2.25 現在)

| 開 催 単 位      | 行事登録数      |    |    |    | 備 考   |
|--------------|------------|----|----|----|-------|
|              | A          | B  | C  | 計  |       |
| 県学術部<br>関係   | 班単独        |    | 8  | 8  |       |
|              | 班合同        |    | 1  | 1  | 病理細胞診 |
|              | 学術部        | 1  |    | 1  |       |
| 県学会・総会<br>関係 | 総会         | 1  |    | 1  |       |
|              | 学会         |    | 1  | 1  |       |
| 東北地区関<br>係   | 県学術<br>と共催 |    |    | 0  |       |
| 支部関係         | 県 北        | 1  | 1  | 6  | 8     |
|              | 県 南        |    | 2  | 10 | 12    |
|              | 会 津        | 2  | 2  | 8  | 12    |
|              | いわき        | 3  | 5  | 23 | 31    |
|              | 相 双<br>合 同 | 1  | 1  | 3  | 4     |
| 他団体と共催       |            | 1  | 9  | 10 |       |
| 合 計          | 8          | 13 | 69 | 90 |       |

# 検査のお仕事

「細胞検査士として」

山口医院 長久保 守

ふと、振り返ってみると細胞検査士の資格を得てから28年が過ぎてしまいました。月並みの言葉になりますが、早かったなというのが実感です。何か「日本昔話」の様な感じになってしまいますが、そもそも細胞検査との出会いは当時勤務していた病院(東京)の産婦人科部長より話がありイヤイヤながら(反面、興味もあった?)そんな複雑な出会いでした。産婦人科部長の出身大学のK大学病理学教室に、勤務を終えてから週に2題の症例検討を細胞診指導医を目指している若いdoctorとともに1年間trainingを受けました。この時学んだ細胞の見方のイロハ、推定病変など私の基礎になりました。この経験により細胞検査に夢中になりこれが俺の天職??。(イヤイヤ若かったナ)



その後、職場の理解をいただき、勤務しながら癌研の細胞診スクリーナー養成所(当時の名称)で学ぶことができました。この半年間は、朝から晩まで細胞検査漬け、それこそ休みを忘れてのめり込みました。今でも忘れられない思い出に、「癌が直った人の会」があります。その寄付により米子市で開催された日本臨床細胞学会に同期生全員で出席できたことです。そういう人々からの厚意、それが今も忘れることができません。

その1年後いろいろお世話になった職場を辞し、ジュネーブ州立病院にある centre de cytology et de depistage du cancer に行くチャンスがありました。(当時この教授はWHOから出版されていた腫瘍シリーズの婦人科細胞診責任者)そこでの2年間は、日本とは異なった細胞検査を学ぶことができました。当時すでにコンピューターシステムになっており、ラボ内での勉強会にもテレビジョンを介して行っており、そのために移動することはありませんでした。また、いろんな国から(カナダ、ドイツ、イギリス、ジャマイカ等)細胞検査士が来ており貴重な経験になりました。いつの間にやらジュネーブに住んでいる同世代の日本人の仲間ができ1カ月に数回集まって楽しく食事会などをし情報交換の場となりました。音楽学院の学生、新聞記者、日本人学校の先生、ILO

やWHOに出向している厚生省や労働省の若手官僚、ジュネーブ大学院に留学中の学生、ジュネーブ州立大学で免疫学を専攻している医師などでした。あるとき、この仲間とフランスとの国境近くの山にドライブに行ったとき、森のロッジの庭先にサングラスをかけた水着姿の若い女性が突然現れ皆でびっくり。日本では考えられないことですから。

そのジュネーブに思いを残しながら生まれ故郷のいわき市に戻り、もうすでに25年が過ぎてしまいました。最初に勤務したいわき市立総合磐城共立病院中央検査部では10年お世話になりました。今も大変お世話になっており、感謝しています。そして現在は山口医院に勤務しております。今は検査室も3人となり開業以来のモットーである、「患者さんの為に」「検体、標本の向こうに患者あり」を忘れずにまだまだがんばって行きたいと思っています。

最後に癌研細胞診スクリーナー養成所同窓会誌第5号より荷見勝彦先生が紹介している岸田衿子の詩集「明るい日の歌から」

一生おなじ歌を歌い続けるのは  
『一生おなじ歌を歌い続けるのは  
大事なことです。難しいことです。  
あの季節がやってくるたびに  
おなじ歌しか歌わない鳥のように』

## お知らせ

### 学術部主催

#### 第11回コントロール・サーベイ報告会並びに学術講演会

開催時期:平成16年3月21日(日)午前9時~

開催場所:ピックパレットふくしま 中会議室

事業主題:平成15年度福島県臨床検査精度管理調査報告会並びに学術講演会

#### 第一部 第11回コントロール・サーベイ報告会

各検査部門精度管理委員

血液検査部門 村田 光子(双葉厚生病院)

一般検査部門 赤間 孝紀(大原総合病院)

血清検査部門 佐藤由紀子(県立会津総合病院)

生理検査部門 斉藤 祐一(大原医療センター)

幕田 倫子(大原総合病院)

臨床化学部門 斉藤 市弘(竹田総合病院)

輸血検査部門 佐久間志津枝(星総合病院)

微生物検査部門

西山 恭子(福島県立医大病院)

コメンテーター

三浦 裕先生(社団法人福島県臨床衛生検査技師会 顧問)

#### 第二部 学術部講演会

『データ共有化の試みー日臨技推奨

内部精度管理試料(infectrol)の意義』

講師 済生会和歌山病院 臨床検査科

田中 久晴先生

## 臨床検査技師の「臨床」の意義は！

平成 15 年度東北地区 生物化学部門・検査総合管理部門 合同研修会 には本県からは6名の参加がありました。大河原千恵(太田熱海病院)・金子隆子(かしま病院) 寺島洋子(公立相馬総合病院)・矢沢正隆(竹田総合病院)・斉藤市弘(竹田総合病院)・加藤幸子(わたり病院)の方々です。編集部にもメールが届きましたので紹介します。



福島医療生活共同組合わたり病院

### 加藤 幸子

1月31日、2月1日の両日、新幹線八戸駅前の八戸地域地場産業振興センター、ユートリーで生物化学部門、検査総合管理部門合同の研修会が開催され、参加してきました。

テーマは「新時代に向かって、検査室・検査技師の在り方を考える」。重いテーマでしたが、検査室が《冬の時代》を抜け出すためのヒントがたくさん込められた、有意義な研修会であったと思います。

特別講演では、医療が量から質への転換の時期にあり、これから目指すべき病院の姿は総合的質の高い病院で、質とは働く人間の質を含めての質であると語られました。実現には人を含めての徹底した品質管理しかなく、やるのは大変だけれど意識改革をしなければならぬというはなしが印象的でした。

教育講演は「これからの検査技師に求められること」にこやかな話し振りにだまされそうになりましたが、内容はしっかり深く、分析業務だけに留まる技師はもはや「臨床検査技師」とよべない、と検査技師が専門職として存在し続けるための心構えが熱く語られました。

最後に、「はやく」で行く八戸はあつという間に着いて、びっくりの近さでした。



講師の渡辺清明慶應大学教授と福島県からの女性達  
矢印は加藤幸子さん

## 第36回福島医学検査学会の

### ご案内

開催日 平成16年5月22日(土)23日(日)

場所 アルツ磐梯 ロッジ&セミナーハウス

担当支部 会津支部

前回(第31回)と同様、総会、懇親会、一般演題、公開講演すべて同施設で行われます。会員貸切(飲み物、食べ物、持ち込み自由)で行われます。なかなか時間の取れない他施設との交流や研究グループ、懇話会など、十分活用してくださいと、矢沢 正隆学会長はおっしゃっています。宿泊は300名収容可能で、一泊朝食付で6000円となっております。学会事務局に寄せられた一般演題は34題になり、部門別の内訳は下記の様になりました。

|      |     |      |     |
|------|-----|------|-----|
| 臨床化学 | 4 題 | 細胞診  | 1 題 |
| 血液   | 4 題 | 病理   | 2 題 |
| 血清   | 2 題 | 輸血   | 4 題 |
| 微生物  | 4 題 | 情報処理 | 5 題 |
| 一般   | 1 題 | 生理   | 7 題 |

エントリーされた会員の皆様はこれから発表に向けて最後の最後までより内容の濃いものとなるよう努力されることと思います。ルーチンも学会準備も全力投球で頑張ってください。

5月22日にはパネルディスカッションが予定されており、【予防医学と臨床検査】サブタイトルは二次予防から一次予防へ～検診検査の今後を考える～です。4名のパネリストが以下のようにそれぞれの担当内容を報告されます。

1. 健康づくりのための県の取り組み  
福島県保健福祉部(演者未定)
2. 基準範囲共有化への取り組み  
福島県臨床衛生検査技師会制度管理委員長  
遠藤 隆(大田西の内病院)
3. 生活スタイル重視の健診 - 新たなアプローチ -  
山口順市(呉羽総合病院)
4. 乳房検診の現状と問題点  
小竹文美子(竹田総合病院)

5月23日(日)には市民公開講演が行われます。講師に管理栄養士、医学博士の杉山みち子先生をお招きし「二次予防から一次予防へ、栄養ケアマネジメント」をテーマにご講演を賜る予定になっております。杉山先生は国立健康・栄養研究所、成人病予防研究室室長、臨床栄養管理研究室室長を歴任し、生活習慣病の一次予防、沖縄の長寿に関する研究、栄養アセスメント蛋白、NST(栄養サポートチーム)等の研究をされ、又、栄養関連学会の理事のほか、日本健康科学学会、日本病院管理学会の評議員など幅広く国内、海外でもご活躍されています。

新緑の爽やかな季節、磐梯山のふもとでのこの学会に、会員の皆様、振るってご参加ください。

# 支部だより

## 相双支部は今年で 17 才です

武花 利美

早いもので私たち相双支部が浜支部から独立したのが昭和 62 年のことであり、今年で 17 歳を迎える。

支部設立当初は、毎年ボーリング大会を兼ねた忘年会を開催していた。ここ数年は新年会に変更され、在り来たりかもしれないが参加者全員に商品が当たるように「ビンゴゲーム」を行っている。当支部の会員数から見ると毎年多くの参加者で楽しいひと時を過ごしていた。

今年はというと不景気？のせいなのか 30 名程度であった。来年はより多くの参加者数を願っている。

ちなみに今年のビンゴ第一位は私であった。これで今年の「運」は終わってしまったのか……



相双支部新年会、お料理にお話に夢中ですね



小林支部長の挨拶

ビンゴ一位、二位

## 福島県輸血懇話会のお知らせ

日時 平成 16 年 9 月 4 日 (土)

会場 いわき保健福祉センター 多目的ホール

医療関係従事者で輸血に関わる人を対象にした勉強会です。お気軽に参加下さい。

## 平成 15 年度第 3 回総務部会開催

平成 16 年 2 月 28 日 (土) 福島県立医科大学附属病院検査部カンファレンスルームで平成 16 年度第 3 回総務部会が開催された。議題は下記のとおりであった。

1. 平成 15 年度経過報告、会計報告、会計監査報告
2. 平成 16 年度事業計画、予算案
3. 平成 16 年度県技師会総会、医学検査学会について
4. 第 46 回東北医学検査学会(福島県)担当について
5. 参与、名誉会員推戴について
6. 各種表彰者推薦について
7. その他 共有化問題(福岡の試料で検討)

## 第 45 回東北医学検査学会のお知らせ

会期 平成 16 年 10 月 9 日 (土)、10 日 (日)

会場 山形テルサ

〒990 0823 山形市双葉町一丁目 2 番 3 号

(JR 山形駅より徒歩 3 分)

学会長 小野 静 (社団法人山形県臨床衛生検査技師会会長)

学会参加費 会員 5000 円 非会員 7000 円

学会内容

メインテーマ

「Active Communication」

- 医療改革の今、臨床検査技師は何をすべきか -  
医療ビックバンの名のもとに、統廃合や医療費削減、医療安全対策、情報開示、IT 化の推進といった医療改革の大きな波が押し寄せている。

一方、医療機関においても、地域医療連携や患者サービスの向上、経営改善、適正な医療、チーム医療への取り組みなど行われているが、臨床検査技師の対応はどうか。

本学会では、こうした医療改革を意識しながら、臨床検査技師のあるべき姿を改めて考えるとともに、今後の臨床検査技師(部門)の役割や方向性を考える会としたい。  
(東北代表者会議資料より)

## 編集後記

毎日、検体検査室の一部で診療前採血を行っています。ずらりと並んだ患者様の前で挨拶をするようにしております。「おはようございます。お待ちせいたしました。只今から採血を開始いたします。

さまどうぞ……」とだけ言っていたのに付け加えて、この頃は「ここのスタッフは全員国家資格を有する臨床検査技師です。検査のことで何かありましたらお気軽に声かけてください」患者様との距離がぐーと近くなってきています。臨床検査技師の「臨床」とは、八戸でヒントをもらいました。(か)